

平成19年度

知識情報・図書館学類  
開設授業科目シラバス

筑波大学情報学群知識情報・図書館学類

標準時間割

1年次

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	総合A*			基礎数学A 205	情報システム概説 205	情報社会と法制度講堂	情報基礎* 205	情報数学* 205	統計-1* 205	実習12クラス* 実I (教育心理34クラス)			実習34クラス* 実I (教育心理12クラス)		
2															
3	第2外国語*			知識情報概論* 205	哲学*講堂	基礎数学B 205	総合B* 201-205	リテラシ実習* 201-205		第2外国語*			体育*		
4	第1外国語*														
5													第1外国語*		
6	(教職論12クラス)		キャリアデザインI										(教職論34クラス)		

実習＝情報基礎実習(1学期)＋プログラミング演習I(2学期)＋プログラミング演習II(3学期) \*＝必修科目

教職科目は次のとおり履修してください。 教職論＝1・2クラス (9803 121, 日日・国際・教育・心理・障害対象科目) 3・4クラス (9803 111, 人文・比較・社会・生物対象)

教育心理学＝1・2クラス (9103 011, 生物・資源対象) 3・4クラス (9104 011または9104 021, 体育・日日対象)

参考:2年次(予定)

	月			火			水			木			金		
	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III	I	II	III
1	総合A*			演習12クラス* 実I (教育基礎学34クラス)			演習34クラス* 実I (道徳・特別活動12クラス)						情報探索論 205	質的調査法 205	情報行動論 205
2										体育*					
3	データベース概説 205	コンピュータシステムとネットワーク 205	多変量解析 205	情報行政法(自由) 104	メディア社会学講堂	知的財産概論講堂	専門英語I-2(34クラス)* 101			公共経済学 205	経営・組織論 205	生涯学習と図書館 205	テキスト解釈-1,-2 202,203 (教育基礎学12クラス) (道徳・特別活動34クラス)		
4							専門英語I-1(12クラス)* 101						専門英語II-1(12クラス)* 101		
5				統計-2 202		量的調査法 104				知識資源組織化論 205	知識発見基礎 205	自然言語解析基礎 205	専門英語II-2(34クラス)* 101		
6													知的探求の世界I(自由) 202,203,204,206,207		

演習＝知識情報演習I(1学期)＋同II(2学期)＋同III(3学期) \*＝必修科目 自由＝自由科目

# 目 次

開設授業科目一覧(シラバス目次)

各科目の概要, 授業予定

履修のてびき

履修のてびき

情報学群履修細則

教科に関する科目一覧

司書、司書教諭科目一覧

大学が単位を与える学修一覧

教員一覧 ・ 索引

開設授業科目一覧  
(シラバス目次)

クラス名 科目番号	科目名	学 年	学 期	曜 日	教 室	単 位 必 選 自	担当者	内容	備考	ページ
<b>共通科目</b>										
<b>総合科目B</b>										
1320 102	フレッシュマンセミナー	1	1	水3	7A201	1	逸村 裕	教室内外の活動を通して、大学と社会の関係や大学における生活、学問に対する取り組み方などについて指導を行いつつ、教員と学生間及び学生相互間のコミュニケーションを図る。	1年1クラス 対象	
1320 202	フレッシュマンセミナー	1	1	水3	7A202	1	黒古 一夫	"	1年2クラス 対象	
1320 302	フレッシュマンセミナー	1	1	水3	7A203	1	鈴木 伸崇	"	1年3クラス 対象	
1320 402	フレッシュマンセミナー	1	1	水3	7A204	1	三波 千穂美	"	1年4クラス 対象	
<b>専門基礎科目</b>										
<b>学群共通科目</b>										
GA1 0101	情報社会と法制度	1	3	火1・2	春日講堂	2	新保 史生	情報化社会における法制度や情報モラル向上に必要な基礎知識を習得することを目指すため、現行の我が国の法制度の基礎を学び、ネットワーク社会における法整備の現状について講義する。		
	知的財産概論	2	3	火3・4	春日講堂	2	村井 麻衣子	知的財産に関する法制度を主要な概念や法理に基づいて学ぶ。著作権法、特許法を中心に、不正競争防止法、商標法など、知的財産諸法についての基礎的な知識を身につけ、知的財産法の法技術的な特色を踏まえた上で、情報化社会における望ましい制度のあり方について考察し、情報の保護と利用についてのバランス感覚や、問題解決能力を身につけることを目的とする。		
<b>知識情報学への導入</b>										
GE1 0101	知識情報概論	1	1	火1・2	7A205	2	石井 啓豊	総合科学としての図書館情報学の全体像、知識情報学への発展を論じる。		
GE1 0201	哲学	1	2	火3・4	春日講堂	2	横山 幹子	古代ギリシアに源を発する西洋哲学の歴史を概観し、西洋哲学史に関する基礎的な知識を習得することを目指す。また、論理学の基本的な考え方に触れる。そして、それら学ぶことを通じて、「考えること」の意味と重要性について考える契機を与える。		
GE2 0101	情報システム概説	1	2	火1・2	7A205	2	中井 央	現代は、さまざまな情報がコンピュータを利用して処理されている。この講義では、具体的なシステムの例をとりあげ、システムの視点から情報の取り扱いを概説する。具体的な内容は、コンピュータ・システムの構成、プログラムの動作の仕組み、情報システムの構成、情報システムにおける情報の表現などについての講義と実習を行う。		
<b>情報リテラシ</b>										
GE1 0301	情報基礎	1	1	水1・2	7A205	2	鈴木 伸崇	情報やデータの表現、メール、Web、インターネット接続などの仕組み、それらを実現するために必要なコンピュータとネットワークに関連した諸要素の原理を概説する。		
GE1 0413	情報基礎実習-1	1	1	木1・2	春日実I	1	逸村 裕 長谷川 秀彦	文書作成、画像加工、表計算、プレゼンテーション作成、Web ページ作成、情報検索など、コンピュータを用いた情報処理の基礎を実習によって学ぶ。	1年1, 2クラス 対象	
GE1 0423	情報基礎実習-2	1	1	金1・2	春日実I	1	逸村 裕 長谷川 秀彦	"	1年3, 4クラス 対象	
GE1 0513	情報リテラシ実習-1	1	2~3	水3	7A201	1	逸村 裕	レポートライティング、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ディベートなど、大学生の3R'sに相当する基本的な知的生産技法を少人数クラスで学ぶ。	1年1クラス 対象	
GE1 0523	情報リテラシ実習-2	1	2~3	水3	7A202	1	黒古 一夫	"	1年2クラス 対象	
GE1 0533	情報リテラシ実習-3	1	2~3	水3	7A203	1	鈴木 伸崇	"	1年3クラス 対象	
GE1 0543	情報リテラシ実習-4	1	2~3	水3	7A204	1	三波 千穂美	"	1年4クラス 対象	
<b>プログラミング基礎</b>										
GE1 0612	プログラミング演習 I-1	1	2	木1・2	春日実I	2	松村 敦 時井 真紀	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自力で書けることを目標にする。	1年1, 2クラス 対象	
GE1 0622	プログラミング演習 I-2	1	2	金1・2	春日実I	2	松村 敦 時井 真紀	"	1年3, 4クラス 対象	
GE1 0712	プログラミング演習 II-1	1	3	木1・2	春日実I	2	真栄城 哲也 飯口 哲男	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使った実践的なプログラミング技術を身につける。ファイル入出力、テキストデータやマルチメディア表現とその処理など実データを扱うプログラムを作成する。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。	1年1, 2クラス 対象	
GE1 0722	プログラミング演習 II-2	1	3	金1・2	春日実I	2	真栄城 哲也 飯口 哲男	"	1年3, 4クラス 対象	
<b>数学</b>										
GE1 0801	情報数学	1	2	水1・2	7A205	2	鏡目 浩輔	ベクトルと行列、集合と論理を講義する。内容は、ベクトルと行列の和差積、単位行列、逆行列、集合と写像、真理値、命題論理、述語論理、論理演算、ブール代数などである。		
GE2 0201	基礎数学A	1	1	火3・4	7A205	2	松本 紳	解析学の初歩を講義する。内容は、関数、関数の特徴、数の体系、無限と連続、極限、1変数関数の微積分などである。		
GE2 0301	基礎数学B	1	3	火3・4	7A205	2	森継 修一	線形代数の初歩を講義する。内容は、連立一次方程式、階数(ランク)、行列式、一次変換、固有値と固有ベクトルなどである。		
<b>統計とその応用</b>										
GE1 0901	統計	1	3	水1・2	7A205	2	長谷川 秀彦	数理統計学の基礎を講義する。内容は、統計の意味、確率、二項分布、正規分布、統計的仮説検定、推定の考え方などである。		
	量的調査法	2	3	火5・6	7A205	2	( )	質問紙調査の企画、標本抽出の方法、調査票の設計、調査の実施、作表とグラフ化、クロス集計と仮説検定など、調査に必要な知識を講義する。		
	多変量解析	2	3	月3・4	7A205	2	小野寺 夏生	データ解析の基礎として、重回帰分析や主成分分析、因子分析など基礎的な多変量解析手法を演習付きで講義する。		
<b>知識情報演習</b>										
	知識情報演習I-1	2	1	火1・2	春日実I	2	谷口 祥一	メタデータの記述と検索システムの構築に関する演習を行う。		
	知識情報演習I-2	2	1	水1・2	春日実I	2	"	"		
	知識情報演習II-1	2	2	火1・2	春日実I	2	逸村 裕	情報や文献の探索に関する実践的演習を行うとともに、パスファインダーやサブジェクトゲートウェイなどを作成して探索方法を人に伝える方法についても学ぶ。		
	知識情報演習II-2	2	2	水1・2	春日実I	2	"	"		
	知識情報演習III-1	2	3	火1・2	春日実I	2	緑川 信之	分類・索引の考え方を学ぶと共に全文検索システムの構築に関する演習を行う。		
	知識情報演習III-2	2	3	水1・2	春日実I	2	"	"		
<b>英語</b>										
	専門英語I-1	2	1~3	水4	7A101	1.5	非常勤★	大学での学習に必要な英語の能力を読解力を中心に発展させる。		
	専門英語I-2	2	1~3	水3	7A101	1.5	非常勤★	"		
	専門英語II-1	2	1~3	金4	7A101	1.5	非常勤★	大学での学習に必要な英語の能力を作文力を中心に発展させる。		
	専門英語II-2	2	1~3	金5	7A101	1.5	非常勤★	"		

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位			担当者	内容	備考	ページ
						必	選	自				
<b>知識と人間</b>												
	情報探索論	2	1	金1・2	7A205		2		岩澤 まり子	情報探索のための情報の蓄積・更新、情報探索の基本的な方法・理論および情報探索のプロセスについて、利用者の探索行動の特性および情報要求と関連づけながら学ぶ。		
	質的調査法	2	2	金1・2	7A205		2		武者小路 澄子	人文学、社会科学における調査手法としての質的調査法の基本的考え方とフィールド研究の方法を学ぶ。具体的には、インタビュー調査、参与観察、エスノグラフィー等について学ぶ。		
	情報行動論	2	3	金1・2	7A205		2		松林 麻美子	情報の獲得と発信に関連する認知的、行動的、社会的諸要素の理解と、情報獲得のための行動様式等について学ぶ。		
	知識発見基礎論	2	2	木5・6	7A205		2		中山 伸一	ヒューリスティクスを利用して知識や問題を発見する技法である創造性開発技法を実践的に学ぶ。		
<b>知識とシステム</b>												
	知識資源組織化論	2	1	木5・6	7A205		2		緑川 信之 谷口 祥一	知識資源の効果的かつ効率的な利用を目的として行われる、情報の分析、記述に基づく知識資源の組織化に関する基本的な考え方を学ぶ。		
	データベース概説	2	2	月3・4	7A205		2		宇陀 則彦	「データベース」という言葉は、データを指す場合もあればシステムを指す場合もあり、文脈によって意味が異なる。本講義では、データベースの基礎概念を学ぶことで、知識資源システムの基礎となるデータベース技術を総合的に理解する。具体的には、データベースの定義と種類、データモデリングの考え方、リレーショナルモデルの基礎、データベース管理システム(DBMS)の基本機能、データベース設計と管理などを、講義と演習を通じて学ぶ。		
	コンピュータシステムとネットワーク	2	1	月3・4	7A205		2		阪口 哲男	コンピュータシステムとネットワークについての基本構成と動作原理について学ぶ。コンピュータシステムのハードウェア構成要素の概要を示し、それと関連付けながらソフトウェアの構成について解説する。ネットワークについてはインターネットを事例とし、コンピュータシステム間のデータ送受の基本的な手順とそれのための通信規約の役割について概説する。総括として、コンピュータシステムとネットワークを組み合わせた活用事例を紹介する。		
	自然言語解析基礎	2	3	木5・6	7A205		2		藤井 敦	人間の日常言語に対する計算機処理は「自然言語処理」と呼ばれ、自然言語テキストの内容を解析する「自然言語解析」と内容的に伝える自然言語テキストを合成する「自然言語生成」があり、前者は、機械翻訳、情報検索における文書の索引付け、音声認識、ワープロ仮名漢字変換などで一定の成果をあげている。本講義では、自然言語解析の基礎理論について、具体的には、自然言語処理の概要、言語モデル、統計的言語処理などについて講義する。		
<b>知識と社会</b>												
	メディア社会学	2	2	火3・4	春日講堂		2		後藤 嘉宏	メディア研究の基礎としての社会学を学ぶ。図書館、マス・メディア、ネット等のメディアを文系的に研究する際、その多くは行為者としての人に着目し、アンケートや質的調査等の社会調査を行う。この社会調査の方法は社会学の中で育まれてきた。哲学の一分野として出発した社会学が、社会調査等で日常生活の具体像に向き合うのはなぜか、その問題意識や方法を考察する。具体的には、まず、理念型、価値自由、行為の意味理解など「ウェーバー」社会学の方法を学ぶ。次に性別、年齢、職業、地位等、社会的属性ごとに人々の意識や行動を捉える社会調査の方法が、どのように人々の意味世界に迫りうるのかを論じる。メディアの問題等を事例に交えながら、社会学の入門的知識を学び、そのことを通じて今後受講生がメディア化した現代社会を理解する手がかりを得たい。		
	生涯学習と図書館	2	3	木3・4	7A205		2		吉田 右子	生涯学習の意義を理解し、学習生活を効果的に援助する方法について学ぶ。		
	公共経済学	2	1	木3・4	7A205		2		池内 淳	ミクロ、厚生経済学を踏まえ、社会資本の経済学的特性を論じる。		
	経営・組織論	2	2	木3・4	7A205		2		大庭 一郎	図書館の経営や情報システムの構築のための、経営概念、経営管理、意思決定、組織、人間行動等についての基礎を学ぶ。		
<b>メディアの理解</b>												
	テキスト解釈-1	2	2	金3	7A202		2		黒古 一夫	テキストの解釈を通じて、言語および意味の視点から、メディアの読解に関する基礎的なトレーニングを行う。		
	テキスト解釈-2	2	2	金3	7A203		2		松本 浩一	〃		
	テキスト解釈-3	2	2	金6	7A202		2		綿坂 豊昭	〃		
	テキスト解釈-4	2	2	金6	7A203		2		太田 勝也	〃		
<b>その他</b>												
	学問と社会	2					1		キャリア支援 担当者			
	情報行政法	2	1	火3・4	7A104		2		山本 順一	高度情報通信社会の進捗を背景として、少子高齢化、国際化、科学技術の高度化と産業構造の変化等に対応している行政活動について、現代行政の重層的イメージを認識し、それを支える行政法理論の動態について学ぶ。		
	知的探求の世界I-1	2	1	水6	7A202		1.5		藤井 敦	少人数ゼミ形式で特定テーマに関する複数の専門書を体系的に講読する。		
	知的探求の世界I-2	2	1	水6	7A203		1.5		松本 紳	〃		
	知的探求の世界I-3	2	1	水6	7A204		1.5		( )	〃		
	知的探求の世界II-1	3	1	水6			1		( )	少人数ゼミ形式で特定テーマに関する複数の専門書を体系的に講読する。		
	知的探求の世界II-2	3	1	水6			1		( )	〃		
<b>学類共通専門科目</b>												
<b>専門英語</b>												
	専門英語III-1	3	1				1		( )	専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。		
	専門英語III-2	3	1				1		石塚 英弘	〃		
	専門英語III-3	3	1				1		溝上 智恵子	〃		
	専門英語IV-1	3	2				1		( )	専門科目や卒業研究に必要な英語読解力を専門書の講読等を通じて習得する。	専門英語 III-1受講者	
	専門英語IV-2	3	2				1		石塚 英弘	〃	専門英語 III-2受講者	
	専門英語IV-3	3	2				1		溝上 智恵子	〃	専門英語 III-3受講者	
<b>知識情報特論</b>												
	知識情報特論I	4	1				2		( )	4年次の学生を対象に、統一されたテーマの下、研究・開発の先端的トピックを複数の講師(学類担当教員、他学類担当教員、学外研究者等)が各回交替で論じる。テーマは年度ごとに設定する。		
	知識情報特論II	4	2				2		( )	〃		
	知識情報特論III	4	集 中				2		( )	〃		
	知識情報特論IV	4	集 中				2		( )	〃		

クラス名 科目番号	科目名	学 年	学 期	曜 日	教 室	単 位 必 選 自	担当者	内容	備考	ページ
<b>卒業研究</b>										
	卒業研究	4	1~3	集中		6	全員			
	卒業研究	4	1	集中		6	全員		1学期卒業 予定者に限	
<b>司書教諭科目</b>										
	学校経営と学校図書館	3・4	1			2	葉袋 秀樹	学校図書館の経営についての基本的な事項の理解とその現状について、学校教育全体の視点から学ぶ。		
	学校図書館メディアの構成	3・4	2			2	三波 千穂美	学校図書館が提供する情報メディアについて、発生・蓄積・提供・検索・分析及び活用方法について学ぶ。		
	学習指導と学校図書館	3・4	3			2	平久江 祐司	学校図書館と学校図書館メディアを効果的に活用する学習指導計画の立案、指導、評価及び教師や児童・生徒に対する支援のあり方について学ぶ。		
	読書と豊かな人間性	3・4	2			2	鈴木 佳苗	児童・生徒の読書の現状や、認知・社会性などへの読書の影響について理解し、発達段階に即した読書教育の理念と方法について学ぶ。		
	情報メディアの活用	3・4	3			2	大澤 文人	活字メディア、視聴覚メディア、教育用ソフトウェア、ネットワーク上の情報資源等多様な情報メディアの特性を踏まえて、それらを教育現場で活用していく方法について学ぶ。		
<b>インターンシップ</b>										
	インターンシップ	3	集中			2		図書館や企業の情報部門等の情報を扱う職場における就業経験を通して、情報と職業の関わり、情報に関する職業場としてのあり方を理解する。それまでに学習した、社会と情報の関係、情報化の進展、情報倫理、情報技術等の内容を就業経験の中で実践的に理解するとともに、職業倫理を含む職業観や勤労観などを職場での体験を通して学ぶ。		
<b>知識科学主専攻専門科目</b>										
<b>主専攻実習</b>										
	知識科学実習I	3	1			1	全員	知識科学主専攻の専門科目に関連した実習を行う。		
	知識科学実習II	3	2			1	全員	〃		
<b>専門情報</b>										
	特許情報論	3・4				2	非常勤★	知的財産権制度と特許制度、特許権の獲得と管理、特許情報の特性、研究と特許、特許情報の流通と探索、技術移転、組織経営における特許の意義、パテントマップ等について学ぶ。		
	医療情報論	3・4				2	岩澤 まり子	専門家、市民など多様な立場から、医療情報の発生・蓄積・流通、医療情報の特徴、医療情報の探索と利用、医療情報に関連する倫理等を学ぶ。		
	サイエンスコミュニケーション	3・4				2	三波 千穂美	科学技術の普及と社会での受容にともなう様々な状況を紹介し、科学と社会の相互作用をコミュニケーションの側面から扱う。		
	コンテンツ概論	3・4				2	(情報メディア創成学類)	本講義ではメディアとしてのコンピュータが取り扱うコンテンツ(情報の中身)を産業的な視点から議論する。映画、放送や展覧会の事例を基にコンテンツの企画や制作について概説する。ゲーム、ケータイに続くデジタルコンテンツを創造するための技術として、バーチャルリアリティ、ユビキタス・コンピューティング等を取り上げる。		
	コンテンツプロデュース論	3・4				2	(情報メディア創成学類)	コンテンツとそれを支えるメディア技術の発展過程の分析を通じて、先端技術とそれを生み出した新しい映像表現の開発手法を論じる。		
	先端技術とメディア表現	3・4				2	(情報メディア創成学類)	コンテンツとそれを支えるメディア技術の発展過程の分析を通じて、先端技術とそれを生み出した新しい映像表現の開発手法を論じる。		
<b>知識共有</b>										
	知識形成論	3・4				2	武者小路 澄子	「知識」とはどのように形成されていくのかについて、これをとらえる様々な立場や研究領域ごとの相違を整理しつつ、知識形成の過程やそこに関わる現代的な問題点を概説する。		
	知識論	3・4				2	横山 幹子	知識の哲学の観点から、「知識」についての問題を取り扱う。知識の哲学における「知識」の捉え方の歴史を踏まえた上で、「知識」についての現代的な多様な考え方の一部を紹介する。		
	レファレンスサイエンス	3・4				2	( )	問題解決のための知識・情報獲得を対象に、問題解決、レバンス、人間-情報メディアの相互作用、コンサルティング等の科学と技術について学ぶ。		
<b>知識行動</b>										
	システム思考とモデリング	3・4				2	石井 啓豊	対象世界の認識方法としてのシステム思考を取り上げ、システム概念、システム・モデル、社会のシステムの把握等とともに、社会における問題解決へのシステム論的アプローチについて学ぶ。		
	学術メディア論	3・4				2	松林 麻実子	学術コミュニティを対象として、情報の生産・流通・利用に関する学術情報流通モデル、学術情報メディア等を総合的に学ぶ。		
	コミュニティ情報論	3・4				2	歳森 敦	数量的なモデル・分析を通じて共同体における知識・情報の利用とそれにもとづく様々な活動について学ぶ。		
	図書館建築論	3・4				2	植松 貞夫	図書館の構成要素をどのように捉え、組み立てていくかという図書館建築計画の実際を通じて、図書館建築が図書館のサービスや利用者の行動に与える影響とそれら行動を踏まえた計画論を学ぶ。		
<b>知識発見</b>										
	知識構造化法	3・4				2	中山 伸一	知識を発見したり抽出したりするための方法として、図表表示法や探索的データ解析、クラスタリングなどについて学ぶ。		
	計量情報学	3・4				2	真栄城 哲也	情報の発信と利用に関する諸現象を計量的に調査・分析するための手法、および分析結果の情報サービスへの応用などについて学ぶ。		
	ソフトコンピューティング	3・4				2	鏡目 浩輔	遺伝的アルゴリズム、量子計算、ニューラルネット等の新しい計算パラダイムの概観及び技術的基礎を学ぶ。		
	データマイニング	3・4				2	長谷川 秀彦	大量のデータから未知の規則性を探し出すための手法として、相関ルール抽出、帰納学習などのデータマイニングの典型的な考え方や方法について学ぶ。		
<b>知識情報システム主専攻専門科目</b>										
<b>主専攻実習</b>										
	知識情報システム実習I	3	1			1	全員	知識情報システム主専攻の専門科目に関連した実習を行う。		
	知識情報システム実習II	3	2			1	全員	〃		
<b>知識情報システムの実際</b>										
	デジタルライブラリ	3・4				2	宇陀 則彦	文献の電子化の歴史的發展と技術的展開、今日の電子的媒体による多様な情報メディアとそのネットワークによる流通の全体像及び諸活動の情報流通のあり方に対するそれらの影響等について学ぶ。		
	デジタルドキュメント	3・4				2	石塚 英弘	デジタルドキュメントはテキストだけでなく、図形、画像、アニメーションを掲載する図形処理と画像処理の機能、映像や音声を組み合わせたマルチメディア表現の機能、Web出版に見られるようにインターネットを介した配布の機能等、従来の紙媒体やCD-ROMのドキュメント(文書)に無い機能を持つ情報メディアである。ここでは、デジタルドキュメントの構成と機能を説明するとともに、これらの機能がどのようにして実現されているかについて、HTML(HyperText Markup Language)、XML(Extensible Markup Language)、PostScript、PDF(Portable Document Format)、SVG(Scalable Vector Graphics)、Flash等について、技術的観点からの講義と実習を行う。		
	情報サービスシステム	3・4				2	( )	高度情報化社会の情報提供サービスの将来像に関して、求められる情報サービスと技術、オリジナル情報提供者、キャリア、利用者など多々の立場から学ぶ。		

クラス名 科目番号	科目名	学 年	学 期	曜 日	教 室	単 位 必 選 自	担当者	内容	備考	ページ
<b>知能情報システムの実務</b>										
	マルチメディアシステム	3-4				2	松本 紳	図書館においても従来の冊子体の文献だけでなく、デジタルドキュメントや、CD、DVDなどのマルチメディアコンテンツを扱うようになってきている。また我々の生活においてもマルチメディア技術は切っても切れないものとなっている。ここでは、マルチメディア工学の基礎、実際のデジタル情報の編集加工、マルチメディア表現などを講義と実習を通じて学ぶ。また、技術的側面だけでなく各種マルチメディアサービスや社会との関連についても学ぶ。具体的には、マルチメディアとは、音声情報(音声合成、音声認識)、画像情報(図形処理と画像処理)、映像情報(各種シミュレーション)、ファイル形式(マルチメディア表現)、インターネット上の情報メディア、マルチメディアサービスなどである。		
	情報検索システム	3-4				2	藤井 敦	高度情報化社会の現代において、World Wide Web上の検索エンジンをを使った情報収集は日常的な活動になっている。必要な情報を効率よく見つけるための「情報検索」の理解は、情報リテラシー教育において重要な役割を演じる。本講義では、文書データベースを対象にした情報検索システムについて講義する。具体的には、情報検索の基本原則、システムの実装方法、システムの評価方法、情報システムの設計と管理、応用事例についての講義と実習を行う。		
	Webプログラミング	3-4				2	阪口 哲男	通信ネットワークの代表であるインターネットでは、World Wide Web(Web)の機構を用いて様々な情報提供や取引、人や組織間のコミュニケーションが行われている。Web上で情報提供やコミュニケーションの機能を実現するには、サーバ側プログラミング技術が欠かせない。サーバ側プログラミング技術について基本原則とその実際、またネットワークに関わるプログラミングで重要なセキュリティ問題などを解説し、事例を紹介する。必要に応じてWebクライアント(ブラウザ)側のプログラミングについても取り上げる。講義内容の理解を深めるため、ネットワークに関する実習も行う。		
<b>知能情報システムの設計</b>										
	データベース技術	3-4				2	森嶋 厚行 (兼任)	データベースシステムを実際に構築する際の諸技術と必要知識について、リレーショナルデータベースを主な対象にして、API(Application Program Interface)をおとしたアプリケーションとの連携、スキーマ定義、インデックスの利用と効果などを、演習を交えながら学ぶ。		
	データ表現と処理	3-4				2	鈴木 伸崇	電子化の進展やインターネットの普及に伴い、近年大量の文書データが蓄積・流通されるようになった。本講義では主にXMLデータに関するデータ構造の表現や質問処理などについて説明する。まず、XMLと他のデータモデル(関係データベース等)の特徴を比較・概説し、次にDTDやW3C XML Schemaなどのスキーマ言語の基本的概念や表現力について述べる。更に、XMLの質問処理について、XPathやXQueryなどの質問言語を中心に説明する。		
	情報デザインとインタフェース	3-4				2	時井 真紀	人間とマシン間でのコミュニケーションをいかに人間にとってわかりやすくするかについて概説する。たとえば、様々な観測、計算等から得られた数値データは、グラフや画像として可視化することによって、はじめてそのデータの中に潜む情報が直感的に読み取れるようになる。コマンドを用いたインターフェースより、アイコンやメニューを用いたグラフィカルユーザーインターフェース(GUI)のほうが人間にとってわかりやすい。人とマシン間の情報の取得と提供をよりスムーズに行うために重要な、グラフィックスを用いてデータを可視化する技術、より直感的な GUI を作成する方法について、講義と実習を通じて学ぶ。		
	ヒューマンインターフェイス	3-4				2	(情報科学類)			
<b>知能情報の組織化</b>										
	知識資源の記述	3-4				2	谷口 祥一	書誌データベース(図書館の目録を含む)における知識資源の記述から、メタデータと呼ばれる記述(特にネットワーク情報資源を対象とするもの)まで広範に取り上げ、その原則や標準化、記述処理支援システム、記述結果である記述データ/メタデータの提供・流通の実態などについて総合的に学ぶ。		
	知識資源の分析	3-4				2	緑川 信之	知識資源の分類と索引に関し、主題分析法、分析ツール、分析結果の表現に関する理論と技術について学ぶ。		
	知識資源の用語管理	3-4				2	辻 慶太	用語の統制方法、シソーラスの構成と利用、テキスト中の用語や索引語の重み付けとその利用等を具体例として、情報検索において用いられる用語の体系化と管理の考え方と手法について学ぶ。		
<b>情報システムの原理</b>										
	グリッドコンピューティング	3-4				2	長谷部 紀元	グリッドコンピューティングは、通信ネットワークで接続された多数のコンピュータを統一的に利用するための技術であり、基礎となっているのは、通信ネットワーク技術、分散オペレーティングシステム、ユーザ管理、セキュリティなどである。ここでは、これらの基本的な技術と各種の応用についての講義と実習を行う。		
	ソフトウェア構成	3-4				2	中井 央	高品質なソフトウェアを効率的に作成する手法について講義する。デザインパターン。		
	データ構造とアルゴリズム	3-4				2	森継 修一	高速な検索の基礎となるファイル構造と探索アルゴリズムについて講義する。		
	テキスト処理	3-4				2	佐藤 哲司	テキスト、すなわち、文章を計算機で処理する様々な例に基づき、その有用性、処理アルゴリズムなどを学ぶ。		
	マークアップ言語						(情報メディア創成学類)			
<b>情報経営・図書館主専攻専門科目 主専攻実習</b>										
	情報経営・図書館実習I	3	1			1	全員	情報経営・図書館主専攻の専門科目に関連した実習を行う。		
	情報経営・図書館実習II	3	2			1	全員	〃		
<b>知能情報環境の構築</b>										
	図書館論	3-4				2	葉袋 秀樹	公共図書館を中心に、地域に対する情報サービスの提供について論じる。		
	学術情報基盤論	3-4				2	逸村 裕	大学における教育研究活動と学術情報流通のしくみを踏まえ、大学図書館の役割・機能、大学図書館の諸活動、ネットワーク、経営管理等について総合的に学ぶ。		
	経営情報システム論	3-4				2	岩丸 良明★	企業や組織を効率的に運営するための情報システムと電子政府のための情報システムについて学ぶ。		
<b>知能情報サービスの経営</b>										
	情報経済論	3-4				2	田村 肇	情報財の経済的特性と情報サービスに関する経済分析を扱う。		
	情報サービス経営論	3-4				2	池内 淳	情報サービス組織における経営計画、組織管理、サービス評価やマーケティング。		
	パブリックガバナンス論	3-4				2	( )	New Public Managementなどの、図書館などへの展開例をとりあげ、現代社会における公共部門の存在理由と役割について論じる。		
<b>知能情報サービスの構成</b>										
	情報サービス構成論	3-4				2	大庭 一郎	広義のレファレンスサービスを対象として、その目的、構成、方法、多様なメディアに対する知能情報探索のツール(レファレンスツール)とその整備、知能情報の探索方法と探索支援体制等について学ぶ。		
	コレクションとアクセス	3-4				2	吉田 右子	図書館におけるコレクション形成の意義と方法について、図書館資料全般の特質、出版と流通、選書と廃棄、選書ツール、保存管理などの面から学ぶ。		
<b>知能情報の社会化</b>										
	教育文化政策	3-4				2	溝上 智恵子	教育政策・文化政策について日本のみならず国際比較の視点から総合的に学ぶ。		
	学校教育と情報利用	3-4				2	平久江 祐司	学校図書館、学校間情報ネットワークなどにおける教育・学習情報の流通を中心に、e-learningを含めた広い視野から学校教育における教育・学習情報の生産、流通、利用の在り方について学ぶ。		

クラス名 科目番号	科目名	学年	学期	曜日	教室	単位			担当者	内容	備考	ページ
						必	選	自				
	メディア教育と発達	3・4					2		鈴木 佳苗	現代社会においてメディアを通じて提示される情報を読み解く力の育成に関し、主として児童青年へのメディアリテラシー教育、教育の効果などについて学ぶ。		
<b>知識情報の規範</b>												
	情報法	3・4					2		新保 史生	ネットワーク社会において新たに発生するようになった法的諸問題に接しながら、法律学の体系に関する主要な概念や法理に基づいて習得し、ネットワークにおいて現実には発生している諸問題の現状と法的対応について講義する。		
	知的財産権論	3・4					2		村井 麻衣子	ネットワーク社会における著作権を中心に、特許等の知的財産権全般について学ぶとともに、図書館活動や各種の情報活動の観点から、知的財産権が持つ意義について学ぶ。		
	図書館情報法制度論	3・4					2		山本 順一	社会の成り立ちと社会変動、そこでの知識・情報の意義、情報社会論の系譜と情報的側面から現代社会の変化の全体像を学ぶ。また、セキュリティについて技術、ポリシー、法律の観点から総合的に学ぶ。		
<b>メディア社会と情報文化</b>												
	メディア社会文化論	3・4					2		後藤 嘉宏	人間相互の結びつきを媒介するメディアが、その結びつきのあり方と、人間の知覚、認識、思考のあり方、さらには社会のあり方とどのように関わり、メディアの展開が人間と社会のあり方にどのような変容をもたらすかについて学ぶ。		
	出版文化・書誌論	3・4					2		黒古 一夫	文化的諸活動における出版の役割の面から、出版文化の意味、出版倫理、出版の自由、学術や宗教、文学等の文化的諸活動と出版、比較出版文化等について学ぶ。特に我が国の文学を事例として文化的活動と出版の関係を深く学ぶ。		
<b>図書館と書物の文化</b>												
	図書館文化史論	3・4					2		( )	図書等を含む情報メディアの歴史、図書館の歴史的発展、およびその文化史的意義等について学ぶ。		
	日本図書学	3・4					2		綿抜 豊昭	我が国の古典籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、和書の目録法などについて学ぶ。また、主要な古典籍所蔵館と古典資料の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。		
	古文書論	3・4					2		( )	古文書(含・古記録)の種類、形態、蒐集、保存、古文書の目録法などについて学ぶ。また、主要な古文書所蔵機関と古文書の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。		
	中国図書学	3・4					2		松本 浩一	漢籍の種類、形態、印刷・出版、蒐集、保存、漢籍の目録法などについて学ぶ。また、我が国の主要な漢籍所蔵館と漢籍の電子化の現状と課題、その意義についても学ぶ。		

標準履修年次が2年次以降の科目の開講学期・曜日・時限・担当者名は予定です。

担当者欄に単に学類名が記載されている科目は、当該学類開設科目を本学類の専門基礎科目あるいは専門科目として指定している科目で、担当者等は当該学類が決定します。

担当者欄に(兼担)とあるのは、他学類の専任教員に本学類開設科目を(所属学類の開設科目とは別に)担当していただく科目です。

科目番号の1桁目Gは情報学群、2桁目Aは学群共通科目Eは知識情報・図書館学類)、3桁目は科目区分、4-5桁目は通し番号、6桁目は枝番、7桁目は授業方法を表す。

GA1: 学群共通(専門基礎科目・選択科目)、GE1: 専門基礎科目・必修科目、GE2: 専門基礎科目・選択科目、GE3: 専門基礎科目・自由科目、GE4: 専門科目・学群共通、

GE5: 専門科目・必修科目、GE6: 専門科目・知識科学主専攻、GE7: 専門科目・知識情報システム主専攻、GE8: 専門科目・情報経営・図書館主専攻

# 各科目の概要、授業予定

1320 102  
1320 202  
1320 302  
1320 402

# フレッシュマンセミナー

## Freshmen Seminar

開設学期 曜時限	1 学期 水曜日 3 時限	教室	201・202 203・204	1 年	1 単位
担当教員	1 年クラス担任	オフィスアワー 研究室			
授業概要	クラス単位での活動を通じて、大学及び大学生活に必要な知識技能の基礎を学ぶ				
学習・教育目標	大学生生活を有意義に過ごすために必要な知識技能を身につける				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 大学とは</li><li>2. 学生生活</li><li>3. 大学のさまざまな仕組み</li><li>4. 大学での学習</li><li>5. 研究と教育そして学習</li><li>6. キャリアを考える</li></ol>				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、発表、レポートなど総合的に評価する				
教材・教科書・ 参考書等	授業時に配布及び紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
備考 講義のホームページ等					

# GA1 0101 情報社会と法制度

## Information Society Law

学期曜時限	3 学期 火曜日 1・2 時限	教室	春日講堂	1 年	2 単位
担当教員	新保 史生	オフィスアワー と研究室	火 12:00～15:00 407		
授業概要	<p>情報化社会における法制度を総合的に学ぶ上で必要な基礎知識を習得することを目指す。情報化社会においては、著作権等の知的所有権の侵害、電子商取引をめぐるトラブル、電子政府の構築を目指して推進されている行政の情報化、サイバー犯罪をはじめとする新たな犯罪の出現、ネットワーク社会の安全確保のための情報セキュリティ対策などとの関係において日々新たな法律問題が発生している。それに伴い、これらの諸問題に対応すべく新たな法律も制定され、情報モラル向上への取組も行われている。現行の我が国の法制度の基礎を学んだ上で、ネットワーク社会における法整備の現状から、具体的な法的諸問題解決のための法的対応について講義する。</p>				
学習・教育目標	<p>情報化社会における身近で具体的な法律問題に即しながら、法学の基礎知識と主要な概念や法理を習得することにより、情報化社会において最低限必要な法的知識を身につける。</p>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法学の基礎知識</li> <li>2 憲法の要点（基本的人権、統治機構）</li> <li>3 政治と法</li> <li>4 民法の基礎</li> <li>5 刑法の基礎</li> <li>6 行政法の基礎</li> <li>7 ネットワーク社会における法的諸問題の類型</li> <li>8 I T 関連の法整備の状況</li> <li>9 高度情報通信ネットワーク社会の実現のための法制度</li> <li>10 電子商取引の推進と規制のための法制度</li> </ol>				
成績評価の方法	定期試験により評価する				
教材・教科書・参考書等	講義において適宜指示する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
備考 講義のホームページ等	講義に関する情報は、 <a href="http://www.shimpo.org">www.shimpo.org</a> ( <a href="http://www.hogen.org">www.hogen.org</a> ) に掲載する				

学期曜時限	1 学期 火曜日 3・4 時限	教 室	図情 2 0 5	1 年	2 単位
担当教員	石井 啓豊	オフィスアワー と研究室	水 2 限 315		
授業概要	総合科学としての図書館情報学の全体像と、その知識情報学への発展を論ずる。知識情報学は、図書館情報学を「メディアを介した知識伝達とその社会的・文化的・技術的仕組み」という視点の中でとらえ直し、より一般的な枠組に発展させるべく構想されるものである。この視点から、図書館情報学を、認知、知識情報資源、社会のそれぞれのレベルで展開される知識のサイクルとして組み替えて解説する。図書館情報学（とその発展としての知識情報学）は人間の認知、知識情報資源、社会の各レベルでの固有の問題領域とともに、各レベルでの技術的領域の両方をカバーする総合的領域であることを踏まえて、その点に目配りをしながら解説する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識情報・図書館学類の対象主題領域（図書館情報学とその知識情報学への発展）の概要を理解する。</li> <li>2. この主題領域の学問的特性、歴史的発展、方法的特徴を理解する。</li> </ol>				
授業計画	<p>I 対象世界</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションと知識共有</li> <li>2. 情報と情報メディアと情報行動</li> </ol> <p>II 知識のサイクル：認知のレベル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 知識の発見と形成</li> <li>4. 知識の表現と解釈</li> <li>5. 思考</li> </ol> <p>III 知識のサイクル：知識情報資源のレベル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. 情報の蓄積と検索</li> <li>7. 知識情報資源</li> <li>8. 知識情報システムとネットワーク</li> </ol> <p>IV 知識のサイクル：社会のレベル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 社会における知識</li> <li>10. 知識と情報共有の制度</li> <li>11. 図書館の文化と経営</li> <li>12. インターネットと知識共有</li> </ol> <p>V まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. 図書館情報学の知識情報学への発展</li> </ol>				
成績評価の方法	出席、および試験（記述式）により評価する（予定）				
教材・教科書・参考書等	教材としてプリントを配付する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
備考 講義のホームページ等					

# GE1 0201 哲学

## Philosophy

学期曜時限	2 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	横山 幹子	オフィスアワー と研究室	木 15:30~17:00 405		
授業概要	古代ギリシアに源を発する西洋哲学の歴史を、古代の哲学から現代の哲学まで、概観する。また、哲学史を概観するなかで、随時、演繹や帰納、帰謬法などの、論理学の基本的な概念の説明も行う。そして、特に、現代の哲学との関わりにおいて、記号論理（命題論理と第一階の述語論理）の基本的な考え方や表記の方法についても触れる。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>西洋哲学史に関する基礎的な知識を習得する。</li> <li>論理学の基本的な考えを理解する。</li> <li>「考えること」の意味と重要性について考える契機を得る。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 古代の哲学</li> <li>2) 中世の哲学</li> <li>3) 近代の哲学（および演繹と帰納）</li> <li>4) 現代の哲学（および記号論理の基本的な考え方）</li> </ol>				
成績評価の方法	出席と学期末の筆記試験による。				
教材・教科書・参考書等	教科書は特に指定せず、資料を配付する。 参考書は授業において、随時、指示する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
備考 講義のホームページ等	授業の2/3以上は出席することを前提とする。				

# GE1 0301 情報基礎

## Elementary Information Technology

学期曜時限	1 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鈴木 伸崇	オフィスアワー と研究室	金 6 時限 204		
授業概要	情報やデータの表現，メール，Web，インターネット接続などの仕組み、それらを実現するための必要なコンピュータとネットワークに関連した諸要素の原理を概説する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報やデータの表現の基礎を理解する</li> <li>2. コンピュータの構成と動作原理の基礎を理解する</li> <li>3. ネットワークの基礎を理解する</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 情報の表現(1)</li> <li>3. 情報の表現(2)</li> <li>4. ハードウェア</li> <li>5. アルゴリズムとデータ構造</li> <li>6. ソフトウェア</li> <li>7. ネットワーク(1)</li> <li>8. ネットワーク(2)</li> <li>9. 情報システムと社会</li> <li>10. 予備</li> </ol>				
成績評価の方法	期末試験				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて資料を配布する。 参考書：大内東・岡部成玄・栗原正仁，情報学入門，コロナ社，2006				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等					
備考 講義のホームページ等					

GE1 0413

## 情報基礎実習-1

## Basics of Information Technology Lab.1

開設学期 曜時限	1 学期 木曜日 1-2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	1 単位
担当教員	逸村 裕 長谷川 秀彦	オフィスアワー 研究室	火 16:45-18:15 ・ 313 号室 水 16:00-17:00 ・ 211 号室		
授業概要	文書作成、画像加工、表計算、プレゼンテーション作成、Web ページ作成、情報検索など、コンピュータを用いた情報処理の基礎を学術情報メディアセンターのコンピュータシステムを利用した実習によって学ぶ。				
学習・教育目標	知識情報・図書館学類の学生として学ぶべき情報技術の基礎を修得する。 図書館及び情報通信技術を用いたデータベースなど、情報検索の基礎を修得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な情報処理技術 (3回) メールをきちんと書く 文書作成 画像加工 PDF 表計算とグラフ作成</li> <li>2. 情報検索の基礎 (2回) 情報を探すとは 各種情報源 サーチエンジン</li> <li>3. Web ページと HTML 言語 (2回)</li> <li>4. 図書館を活用した情報検索 (2回) OPAC 雑誌・新聞記事を探す 筑波大学所蔵以外の資料を検索し入手する</li> <li>5. プレゼンテーションの作成 (1回)</li> </ol>				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、レポートなどを総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	実習教材は Web ページにて公開、あるいはプリントとして配布する。参考書等は授業時に紹介する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	1 年 3 ・ 4 クラス対象				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0423

## 情報基礎実習-2

## Basics of Information Technology Lab. 2

開設学期 曜時限	1 学期 金曜日 1-2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	1 単位
担当教員	逸村 裕 長谷川 秀彦	オフィスアワー 研究室	火 16:45-18:15 ・ 313 号室 水 16:00-17:00 ・ 211 号室		
授業概要	文書作成、画像加工、表計算、プレゼンテーション作成、Web ページ作成、情報検索など、コンピュータを用いた情報処理の基礎を学術情報メディアセンターのコンピュータシステムを利用した実習によって学ぶ。				
学習・教育目標	知識情報・図書館学類の学生として学ぶべき情報技術の基礎を修得する。 図書館及び情報通信技術を用いたデータベースなど、情報検索の基礎を修得する。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な情報処理技術（3回） メールをきちんと書く 文書作成 画像加工 PDF 表計算とグラフ作成</li> <li>2. 情報検索の基礎（2回） 情報を探すとは 各種情報源 サーチエンジン</li> <li>3. Web ページと HTML 言語（2回）</li> <li>4. 図書館を活用した情報検索（2回） OPAC 雑誌・新聞記事を探す 筑波大学所蔵以外の資料を検索し入手する</li> <li>5. プレゼンテーションの作成（1回）</li> </ol>				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、レポートなどを総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	実習教材は Web ページにて公開、あるいはプリントとして配布する。参考書等は授業時に紹介する				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	1 年 3 ・ 4 クラス対象				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0513  
GE1 0523  
GE1 0533  
GE1 0543

# 情報リテラシ実習-1~4

## Information Literacy Lab

開設学期 曜時限	2-3 学期 水曜日 3 時限	教室	1 ｸﾗｽ 201 2 ｸﾗｽ 202 3 ｸﾗｽ 203 4 ｸﾗｽ 204	1 年	1 単位
担当教員	1 年次ｸﾗｽ担任	オフィスアワー 研究室	火 16:45-18:15 313 号室		
授業概要	レポートライティング、テクニカルライティング、プレゼンテーション、ディベートなど大学生の 3 R's に相当する基本的な知的生産技法を少人数ｸﾗｽで学ぶ。				
学習・教育目標	大学における学習方法を学ぶ。 レポート作成技術の基礎について実習を通じて修得する。 論理的な文章の作成、Bibliography 作成、基礎的な英文（メール）記述、情報探索の基礎、図書館及び基礎的なレファレンス資料と文献データベースの使い方、グループワークの実践等を行う。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 大学における 3 R's</li><li>2. レポート作成の基礎</li><li>3. より良いレポートを作成する</li><li>4. 図書館を実践的に使う</li><li>5. 情報を探索する</li><li>6. 情報を分析する</li><li>7. 発表する</li><li>8. 質問する</li><li>9. グループワークによる問題解決を行う</li><li>10. ライフデザインとキャリアデザインを検討する</li></ol>				
成績評価の方法	出席状況、参加態度、発表、レポートなど総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	授業時に配布及び紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	1 年次対象				
備考 講義のホームページ等					

GE1 0612

## プログラミング演習 I-1

## Computer Programming Lab I-1

学期曜時限	2 学期 木曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	松村 敦 時井真紀	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 212 火 5・6 限 203		
授業概要	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自分で書けることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 逐次実行の仕組みと多くのデータを繰り返しや場合分けで処理する仕組みを理解する。</li> <li>・ プログラムの有用性と必要性を理解する。</li> <li>・ 単純な処理を行うプログラムを自力で書ける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：自作プログラムでコンピュータを操ることを体験する。</li> <li>2. プログラミング基礎 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変数, 配列, 文字列, クラス</li> <li>・ 制御構造 (繰り返し, 条件分岐)</li> <li>・ メソッド</li> </ul> </li> <li>3. 応用問題による演習</li> </ol>				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識, 他科目との 関連等	情報基礎実習で学ぶコンピュータの基本的な操作方法に習熟していることを前提とする。				
備考 講義のホームページ等	1 年 1,2 クラス対象				

GE1 0622

## プログラミング演習 I-2

## Computer Programming Lab I-2

学期曜時限	2 学期 金曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	松村 敦 時井真紀	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 212 火 5・6 限 203		
授業概要	コンピュータ・プログラミングの基礎を学習する。具体的にはプログラミング言語と幾つかの基本的なアルゴリズム、処理の流れを習得するプログラミング演習を行う。最終的にはプログラムが自分で書けることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 逐次実行の仕組みと多くのデータを繰り返しや場合分けで処理する仕組みを理解する。</li> <li>・ プログラムの有用性と必要性を理解する。</li> <li>・ 単純な処理を行うプログラムを自力で書ける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：自作プログラムでコンピュータを操ることを体験する。</li> <li>2. プログラミング基礎 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変数, 配列, 文字列, クラス</li> <li>・ 制御構造 (繰り返し, 条件分岐)</li> <li>・ メソッド</li> </ul> </li> <li>3. 応用問題による演習</li> </ol>				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	情報基礎実習で学ぶコンピュータの基本的な操作方法に習熟していることを前提とする。				
備考 講義のホームページ等	1 年 3,4 クラス対象				

GE1 0712

## プログラミング演習 II-1

## Computer Programming Lab II-1

学期曜時限	3 学期 木曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	真榮城哲也 阪口哲男	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 409 木 5・6 限ほか 312		
授業概要	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使うようなより実践的なプログラミング技術を身につける。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のデータ（テキスト、マルチメディア等）を扱うプログラムが書ける。</li> <li>・大きな問題を切り分けることができ、切り分けた問題に対するプログラムが書ける。</li> <li>・プログラムの分かりやすい説明が書ける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：自作プログラムで自在にデータを操ることを体験する。</li> <li>2. 実データの処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイル入出力</li> <li>・テキストデータ処理</li> <li>・マルチメディア表現とその処理</li> </ul> </li> <li>3. GUI(グラフィカルユーザインタフェース)プログラム作成</li> <li>4. 応用問題による演習</li> </ol>				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習 I での学習内容に習熟していることを前提とする。				
備考 講義のホームページ等	1 年 1,2 クラス対象				

GE1 0722

## プログラミング演習 II-2

## Computer Programming Lab II-2

学期曜時限	3 学期金曜日 1・2 時限	教室	春日実習室 I	1 年	2 単位
担当教員	真榮城哲也 阪口哲男	オフィスアワー と研究室	火 5・6 限 409 木 5・6 限ほか 312		
授業概要	プログラミングの基礎知識を前提として、マルチメディアデータを使うようなより実践的なプログラミング技術を身につける。最終的に問題解決手段としてのプログラミングが行えることを目標にする。				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際のデータ（テキスト、マルチメディア等）を扱うプログラムが書ける。</li> <li>・大きな問題を切り分けることができ、切り分けた問題に対するプログラムが書ける。</li> <li>・プログラムの分かりやすい説明が書ける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入：自作プログラムで自在にデータを操ることを体験する。</li> <li>2. 実データの処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファイル入出力</li> <li>・テキストデータ処理</li> <li>・マルチメディア表現とその処理</li> </ul> </li> <li>3. GUI(グラフィカルユーザインタフェース)プログラム作成</li> <li>4. 応用問題による演習</li> </ol>				
成績評価の方法	演習中の課題とレポートを総合して評価する。				
教材・教科書・参考書等	必要に応じて教材としてプリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	プログラミング演習 I での学習内容に習熟していることを前提とする。				
備考 講義のホームページ等	1 年 3,4 クラス対象				

# GE1 0801 情報数学

## Information Mathematics

学期曜時限	2 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	鎮目浩輔	オフィスアワー と研究室	水 3・4 限 314		
授業概要	<p>数学の基礎であり情報科学にも直接的な応用を持つベクトルと行列の演算、集合と写像、論理学の入門的な部分を講義する。基礎的な概念とともに簡単な応用例（例えばベクトルと行列の演算ではコンピュータグラフィクス、集合ではデータベース、論理学では論理回路構成など）にも触れる。また数学では手を動かしての習得が不可欠なので、授業中にある程度演習を行う。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数学的・論理的な考え方を論理の形式論を通してきちんと身につける。</li> <li>・ 集合と写像の基礎概念を理解し基本的な演算ができるようになる。</li> <li>・ ベクトルと行列の関係を理解し、行列計算ができるようになる。</li> </ul>				
授業計画	<p>I. 論理学の基礎 命題論理、述語論理、ブール代数</p> <p>II. 集合と写像 集合の概念、集合演算、写像、写像の合成と逆写像等</p> <p>III. ベクトルと行列の演算 幾何学的ベクトルと行列、行列の定義、行列の演算（和、差、積、逆行列）、図形の Affine 変換（平行移動、回転、拡大など）</p>				
成績評価の方法	試験による。必要に応じてレポートも課す。				
教材・教科書・参考書等	プリントを配布する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等					
備考 講義のホームページ等					

GE1 0901

## 統計

Statistics

学期曜時限	3 学期 水曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	長谷川 秀彦	オフィスアワー と研究室	水 16:00～17:00 211		
授業概要	<p>統計はデータの分析と解釈，意思決定において不可欠で，好むと好まざるとにかかわらず日常でも目にするものである。世間には統計のハウツー本があふれているが，大事なことは「統計的なものの考え方」である。本講義では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にとりあげられたテーマを講義し，</li> <li>・各自が関連した身近な話題について考える</li> </ul> <p>というプロセスを通して，統計の意味，確率，二項分布，正規分布，統計的仮説検定，推計の考え方などを理解してもらう。</p> <p>「自分で試してみる」，「自分で考える」ことが重要なので必ず課題をこなすこと。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 統計的考え方のマスター：統計量についての基本概念，正規分布 少なくとも「統計でだまされない」，「統計でだませる」ようになってほしい。</li> <li>・ 統計的仮説検定の考え方</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 データを図や表にまとめる</li> <li>2 平均・分散・標準偏差・モード・メディアン</li> <li>3 相関・回帰</li> <li>4 確率の考え方</li> <li>5 正規分布の使い方</li> <li>6 統計的仮説検定の考え方</li> <li>7 独立性の検定・母平均の検定・等平均仮説の検定</li> <li>8 推定</li> </ol>				
成績評価の方法	レポートと試験。				
教材・教科書・参考書等	『ゼロから学ぶ統計解析』，小寺平治，講談社サイエンティフィク，2500 円，ISBN 4-06-154656-2 を教科書とする。				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	特別な予備知識は仮定しない。社会人の常識として，なるべく多く履修してもらいたい。				
備考 講義のホームページ等					

# GE2 0101 情報システム概説

## Foundations of Information Systems

学期曜時限	2 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	中井 央	オフィスアワー と研究室	月曜 10:10 ~ 11:25		
授業概要	現代は、さまざまな情報がコンピュータを利用して処理されている。この講義では、具体的なシステムの例をとりあげ、システムの視点から情報の取り扱いを概説する。具体的な内容は、コンピュータ・システムの構成、プログラムの動作の仕組み、情報システムの構成、情報システムにおける情報の表現などについての講義と実習を行う。				
学習・教育目標	現代にはさまざまな情報システムが存在すること、それぞれのシステムを理解するにはどのような基盤的な知識を必要とするか、ということを知ることが目標とする。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 講義の概略</li><li>2. コンピュータの動作原理とソフトウェア (四週程度)</li><li>3. 情報システムの事例紹介 (四週程度)</li><li>4. 総括</li><li>5. 試験</li></ol>				
成績評価の方法	授業時に行う小テストおよび、期末試験もしくはレポート				
教材・教科書・参考書等	特になし (授業時に必要に応じて配布もしくは指示)				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	特になし				
備考 講義のホームページ等	<a href="http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai/2007/FIS/">http://www.slis.tsukuba.ac.jp/~nakai/2007/FIS/</a>				

GE1 0201

## 基礎数学 A

Basic Mathematics A

学期曜時限	1 学期 火曜日 1・2 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	松本 紳	オフィスアワーと研究室	金 10:00~11:30 又は 16:45-18:00 202 研究室		
授業概要	関数や微積は、必ずしも数学・物理などの自然科学に限られたものではなく、統計処理や情報学、グラフィックスなど様々なところで必要となっている。本講義では、図書館情報学の基礎となる数学のうち、解析学の初歩を行う。授業では、数学的厳密さを求めるのではなく、これらの数学を使いこなせるように平易に解説するつもりである。また、解析的な解法だけでなく、数値計算に関する解法も時間があれば紹介する。				
学習・教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 関数の概念を理解し初等関数を使いこなせるようにする。</li> <li>2 微積の概念を理解し、それらに関する具体的問題解決の応用力をつける。</li> <li>3 実際の計算を通して、基礎的な計算力や技術（工夫）を身につける。</li> </ol>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 実数の概念・実数の連続性・実数の性質・数列の極限</li> <li>3 関数（連続関数・逆関数・指数関数・対数関数・三角関数）</li> <li>4 微分・初等関数の微分・平均値の定理・テーラー展開・微分方の応用</li> <li>5 数値微分の例</li> <li>6 積分・初等関数の積分・広義積分・積分法の応用</li> <li>7 数値積分の例</li> <li>8 無限級数</li> </ol>				
成績評価の方法	出席（クイズ）、レポート、試験を総合的に評価する				
教材・教科書・参考書等	必要に応じてプリントを配布する。参考図書等は授業時に紹介する。				
履修要件 前提知識、他科目との 関連等	前提知識は特に必要としないが、高校の数Ⅱ程度の知識を習得している方が望ましい				
備考 講義のホームページ等					

GE2 0301

## 基礎数学 B

Basic Mathematics B

学期曜時限	3 学期 火曜日 3・4 時限	教室	7A205	1 年	2 単位
担当教員	森継 修一	オフィスアワー と研究室	月 17:30～19:30 214		
授業概要	<p>図書館情報学の基礎となる数学のうち、線形代数の初歩を講義する。 連立1次方程式の解法であるガウスの消去法を基礎として、抽象的な理論と具体的な計算の結びつきを示しながら、諸概念を論じる。内容の確実な理解のために演習を課すが、その際、「技巧的・場当たりの」な解法を排除し、「アルゴリズム的」な解法が身に付くよう指導する。これは、プログラミングを学ぶ際の基礎的な思考訓練でもある。</p>				
学習・教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校数学の確実な理解を土台として、線形代数における基本的諸概念を理解する。</li> <li>● 問題解決のための計算が確実に実行できるようにする。</li> <li>● 数学の答案の記述法およびレポートのまとめ方を身に付ける。</li> </ul>				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガウスの消去法 連立1次方程式の代表的な解法であるガウスの消去法を用いて、連立1次方程式が確実に解けるようにする。「軸選択」の手順を通して、「すべての場合に適用できる一般的な手続き」のための思考方法を指導する。</li> <li>2. 実数ベクトル空間と線形写像，行列 ベクトルの1次独立性・行列の正則性・逆行列・行列の階数とゼロ空間の次元などの概念を論じる。具体的な計算はすべて、ガウスの消去法に帰着させる。</li> <li>3. 行列の固有値・固有ベクトル，行列式 まず、固有値・固有ベクトルを定義に基づいて直接求める方法を示し、固有値を特性方程式の根として位置づけるために、行列式を導入する。行列式の計算においても、ガウスの消去法に基づいた方法を用いる。</li> </ol> <p>内容の確実な理解のため、各自における講義時間以外の演習を重視する。</p>				
成績評価の方法	複数回のレポートと試験の結果をあわせて評価する。				
教材・教科書・参考書等	<p>教科書：村田健郎 『線形代数と線形計算法序説』 サイエンス社（1986） 教科書：岡本和夫 『行列と1次変換』 実教出版（1998） 教科書：佐藤文広 『数学ビギナーズマニュアル』 日本評論社（1994）</p>				
履修要件 前提知識，他科目との 関連等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● GE10 801 「情報数学」の単位取得者に限る。</li> <li>● 高校数学 I, A, II, B までの知識が確実に使いこなせることを前提とする。</li> </ul>				
備考 講義のホームページ等					

履 修 の て び き

### 1. 履修要覧と履修に関する相談窓口

入学時点で配布される「履修要覧」は卒業時まで保管してください。自分の卒業要件や資格取得の条件は、入学年度の履修要覧に記載されたものが適用されます。紛失しても再配布しません。「開設授業科目一覧」と「知識情報・図書館学類シラバス」は毎年4月にその年度用のものが配布されます。

卒業要件や資格に関する履修方法の相談（特に、規則に関して不明な点）は、学群学務係が窓口です。先輩や同級生の体験談やうわさ話を鵜呑みにせず、わからないことはたとえ小さなことでも学群学務係であなた自身が確認するようにしてください。卒業できなくなったり、資格が取得できなくなるのは、あなた自身です。

### 2. 卒業要件と進級

授業科目を履修して期末試験に合格すると所定の単位が与えられます。大学を卒業するためには、主専攻ごとに定められた「卒業に必要な履修科目および修得単位数」に基づいて、大学が用意した科目の中から所定の単位数以上を修得しなければなりません。これを「卒業要件」と呼びます。本学では共通科目、関連科目、専門基礎科目、専門科目という4種類の区分ごとに、必修科目、選択科目、自由科目という3つのカテゴリに分けて、履修科目と修得単位数が指定されており、それぞれの条件を全て満たさなければなりません。本学類の卒業要件は情報学群履修細則（以下、細則）の別表1に定められています。詳しくはp.○からの科目選択ガイドをご覧ください。

本学類のカリキュラムは、標準的には1年次から2年次にかけて毎年40単位程度、3年次に30単位程度、4年次に卒業研究を含めて15単位程度を履修し、48ヶ月の修学で卒業に必要な単位を修得できるよう設計されています。

本学類には進級の条件や主専攻分野選択の条件となる履修科目や単位数はありません。ただし、卒業研究に着手するための最低単位数が定められており、3年次終了までに「卒業に必要な履修科目」を90単位以上修得していないと、自動的に留年が決定します。この「卒業に必要な履修科目」を「卒業要件科目」と呼んでおり、本学で開設される科目の一部、例えば「教職に関する科目」は、本学類では卒業要件科目には含まれません。

### 3. キャップ制

本学では学習の質を維持するために、1年間に履修登録できる単位数に上限を設けており、この制度を「キャップ制」と呼んでいます。修得単位数でなく、登録単位数に関する制限であることに注意してください。履修放棄しても一旦履修登録した科目は登録単位数に含まれます。情報学群では登録の上限を45単位と定めています。ただし、編入学者は入学年度に限り55単位まで履修登録できます。また、「教職に関する科目」と

「博物館に関する科目」は、キャップ制における登録単位数に含まれません(細則 5 条)。

前年度の成績が良好であった人(前年度において卒業の要件として必要な単位を 40 単位以上修得し、その 70%以上が「A」である者)は、キャップ制の制限を緩和して 55 単位まで履修登録できます。(細則 5 条 2)

制限を超える履修登録は本来機械的にチェックされるべきですが、TWINS ではキャップ制の上限を超えた履修登録が可能です。制限を超えないよう自分で確認して、登録を行ってください。2 学期や 3 学期に超過が起きないように、4 月の時点で集中科目も含めた年間の履修計画をたてることを強くお勧めします。たとえ 4 月に履修登録をしても、実施学期の履修申請締め切り日までは申請の修正が可能です。なお誤ってキャップ制の上限を超えて履修登録した場合、本学類では超過した単位数分の科目に関して科目区分を変更し、卒業要件から除外します。

#### 4. 成績評価と GPA

フレッシュマン・セミナーを除いて、科目の成績は A~D の 4 段階で評価されます。A~C には当該科目の単位が与えられますが、D は不合格です。また、登録だけして受講しなかった場合は「履修放棄」が記録されます。「履修放棄」となった科目は翌学期から TWINS 上で表示されなくなりますが、履修の記録が消えたわけではありません。D あるいは「履修放棄」の科目は再履修できますが、一旦 A から C の成績がつけられた科目を再履修することを本学類では許していません。TWINS 上は再履修が登録できますが、卒業要件の単位数としては算入しませんし、以下で説明する GPA の計算には最初の成績だけが使用されます。

成績をどのように評価するかは科目毎に異なります。基本は期末試験による評価ですが、科目によってはレポート、小テスト、授業中の質問や発言による授業への貢献・参加など、授業の進め方や科目の特徴に応じたさまざまな評価基準を担当教員が定めています。情報学群では、評価方法を学類シラバスに明示しています。授業の無断欠席は履修放棄と見なされることがあります。欠席届を提出しても、学修量が十分でない教員が判断した場合は、不合格となることがあります。

学生個人の総合的な学習到達度の評価として、本学類は GPA (Grade Point Average) と呼ばれる総合評価法を採用しています。GPA は成績が A の科目に 3 点、B に 2 点、C に 1 点、D と履修放棄に 0 点のスコアを与え、算定対象期間中に履修登録した全ての卒業要件科目の平均点を求めたものです(式参照)。フレッシュマン・セミナーと他大学等で修得するなどして認定された単位は GPA の算定に含めません。

本学類は、学生が無計画に修得単位数を増やすことよりも、各自の学習計画に沿って、受講する一つ一つの科目において高い到達度を達成することを期待しています。GPA では、過剰な履修登録により履修放棄や成績の悪い科目を増やすことが不利な評価につながります。

3年次に行われる主専攻の選択では、2年次末までのGPAの高得点順に主専攻を決定します。GPAの低い人は必ずしも希望する主専攻にすすめない場合があります。また、早期卒業の判定などにもGPAが用いられます。

$$\text{GPA} = \frac{\text{Aの単位数} \times 3 + \text{Bの単位数} \times 2 + \text{Cの単位数} \times 1}{(\text{算定対象期間中の}) \text{総履修登録単位数}}$$

\* 総履修登録単位数は卒業要件となる科目の単位数の合計

#### 5. 不正行為の禁止

期末試験において不正行為を行った場合、当該科目または当該学期の全科目の受験が無効となります。また学則上の懲戒処分の対象となります（通常は停学処分が下されます）。これらの処分により、当該学期と翌学期の単位が修得できず、卒業が大幅に遅れることとなります。くれぐれも不正行為に関わらないように注意してください。

他人のレポートの複製や剽窃も、成績評価を偽るだけでなく、他人の著作権を侵す行為であり、本学類では試験における不正行為に準じて厳しく対応します。

#### 6. 主専攻と指導教員の決定

主専攻はあなた自身の希望と2年次までの成績をもとに3年次の4月に決定します。GPAの高得点順に第1希望の主専攻に配属されますが、主専攻の定員（在籍者数をもとに別途公表します）を超過した場合には、第2希望以降の主専攻に配属されます。

卒業研究の指導教員は3年次の2学期に決定します。決定の方法については別途案内します。

#### 7. 成績優秀者の早期卒業、大学院への推薦（2学期入学者は12.参照）

2年次終了時点で卒業に必要な単位を90単位以上修得し、それまでのGPAが学類の同学年（2学期入学者を除く）の上位3%以内である人は、早期卒業の資格を得ます。その上で早期卒業を希望する人は、3年次1学期から卒業研究に着手することになります。学年末に卒業要件を満たした場合、3年次の3月に卒業できます（細則7条）。早期卒業をめざす人は、1年次にキャップ制緩和を獲得するなど、早い時期から計画的に3年間での卒業をめざした履修をすすめてください。

3年次2学期末、3年次3学期末のいずれかの時点でGPAによって成績優秀と判定された人、早期卒業に着手した人は、希望すると7月に行われる図書館情報メディア研究科推薦入学試験に対して推薦を受けることができます。

#### 8. 成績不振者への指導

本学では年間の修得単位数が15単位未満の学生は学則により除籍処分となります。

卒業年度に限り修得する単位数は 15 単位未満でもかまいません。本学類は、クラス担任による早い段階での履修指導や生活指導を通じ、成績不振が起きないように努めますが、みなさんも自分からクラス担任や学群学務・学生支援窓口にご相談するなどしてください。

本学類では成績不振の学生に対して、クラス担任による履修指導を行うとともに、保護者に対しても成績を通知し、進路の変更を含めた話し合いを行うよう促します。

## 9. クラス制度

本学類では 1 学年は 4 クラス（概ね 25 名）で編成されます。3 年次編入の学生は別に 1 クラス（概ね 10 名）を編成します。クラス担任の指導は卒業研究の指導教員が決まるまで続きます。クラス担任は原則として交替しません。

## 10. 資格の取得（司書）

表〇に指定された 14 科目を履修することで司書の資格を取得できます。本学類のカリキュラムでは、2 年次までの専門基礎科目として 8 科目を修得し、3 年次以降で専門科目として 6 科目を修得するよう計画されています。専門科目 6 科目は主専攻をまたがって開講されており、いずれの主専攻を選択しても、無理なく司書資格の取得が可能です。図書館関係の専門職への就職を目指す人は、必ず司書資格を取得してください。

## 11. 資格の取得（教員免許、司書教諭）

本学類では所定の単位を修得することで社会（中学校）、公民（高校）、数学（中学校・高校）、情報（高校）の教員免許を取得することができます。ただし、卒業のために必要な単位とは別に、30 単位程度（情報）あるいは 40～45 単位程度（社会、公民、数学）の科目を余分に修得しなければならないので、相当大きな負担を覚悟してください。また、一人の教員の養成には教育実習などで学外の多くの人の助力が必要なこと、教員免許の更新制導入の検討が進んでいることなどを考えると、単なる資格としてだけで教員免許に挑戦することはやめるようお勧めします。

「教職に関する科目」は学類ごとに受講するクラスが指定されていますが、本学類の学生は原則としてどのクラスでも受講することができます。ただし、特定クラスに集中することが無いよう、標準時間割で指定したクラスを受講するようにしてください。

教員免許に併せて表〇の科目を履修することで、司書教諭の資格が取得できます。3 年次に 5 科目全てを履修し、4 年次 6 月に本学の司書教諭講習への書類参加（講習の受講に代えて単位取得証明の提出によって司書教諭資格を得る手続き）を申請してください。履修が遅れて、手続きが在学中にできなかった人は、文部科学省を窓口書類参加手続きを行なうことができます。本学では、司書教諭資格のための 10 単位を教職の「教科または教職に関する科目」に含めることができますし、本学類では卒業要件上の他専攻専門科目に含めることができます。教員を志す本学類学生は教員免許と同時に司書教

論の資格も取得することをお勧めします。なお、所定の科目を履修しても、教員免許を取得しないと司書教諭の資格は取得できません。

## 12. 2 学期入学者

2 学期入学の学生は、変則的なカリキュラムとなるので、クラス担任と綿密に相談して履修計画をたててください。1 学期に開講済みの 1 年次向け科目のうち、フレッシュマン・セミナー、情報基礎、情報基礎実習、第 1 外国語、第 2 外国語、体育は 2 学期入学者向けに特設の補講が開講されます。3 年次の主専攻の決定、卒業研究の指導教員の決定は 4 月入学者と同時期に行います。

早期卒業の資格判定は 3 年次 1 学期末に、同じ学年の 2 年次末時点の成績と比較することで行います。卒業に必要な単位を 90 単位以上修得済みで成績が上位 3%以内である人は、4 年次の 7 月（入学 36 ヶ月後）に早期卒業する資格を得ます。同時点で卒業に必要な単位を 80 単位以上修得済みで成績が優秀である人は、4 月入学者と同時（入学 44 ヶ月後）の 3 月に卒業することができます。3 月卒業に着手し、3 年次 2 学期末または 3 学期末の GPA が学年の上位 10%以内である人は、希望すれば図書館情報メディア研究科推薦入学試験に対して推薦を受けることができます。

## 科目選択ガイド

### 1. 卒業要件の科目区分とクラス

本学類の卒業要件は細則の別表 1 に定められており、カリキュラムを学年の進行に沿って表すと表 1 の履修計画となります。1 年次はほとんどが必修科目ですが、徐々に選択の幅が広がり、3 年次にはほとんど全ての科目を自分自身で計画的に選択しなければなりません。卒業には最低 125.5 単位が必要です。以下では基礎科目（共通科目と関連科目）、専門基礎科目、専門科目の順に履修の方法を説明しますが、その前に必修科目、選択科目、自由科目の違いを理解しておきましょう。

必修科目は卒業のために必ず修得しなければならない科目です。自由科目は学類の体系的な専門教育を補う形で、みなさん自身が全学の幅広い科目群の中から計画的に選択して履修する科目です。

本学類では専門基礎科目や専門科目として開設している科目群を、専門教育としての関連性を考慮し、クラスという単位にまとめています。クラス単位の履修することで、関連した内容を有機的かつ十分に学修することができます。各科目は原則として同じ曜日時限の 1～3 学期に、クラスの内容に沿った順序で開講されます。

### 2. 基礎科目の履修

基礎科目は幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養することをめざして設けられた区分で、大学全体として開設された科目群で構成されます。大学生として共通に学ぶべき科目群である共通科目と学類ごとに内容を定める関連科目に分かれ、それぞれに修得単位数が定められています。基礎科目（共通科目、関連科目）の履修方法は全学で統一して定められており、詳しくは履修要覧の該当ページを参照して下さい。

本学類では共通科目の必修科目として総合科目 A を 6 単位以上、総合科目 B（フレッシュマン・セミナー）を 1 単位、体育を 2 単位、第 1 外国語（英語）を 4.5 単位の合計 13.5 単位以上修得すること、関連科目の必修科目として第 2 外国語を 3 単位修得することとしています。共通科目、関連科目とも選択科目はありません。

体育、第 1 外国語、第 2 外国語は学類・学年ごとに曜時限・クラスが指定されており、原則として変更できません。体育の 1 単位を除く科目は 1 年次のうちに修得することが期待されています。特に、1 年次に外国語の単位を修得できないと次年度以降の科目選択に大きな制約が生じるので注意しましょう。

共通科目の自由科目としては総合科目 A や体育が履修可能です。関連科目の自由科目としては、国語、外国語中級、外国語上級、特設自由科目の他、他学類の開設科目が履修できます。ただし本学類では情報処理（上級）を関連科目とすることはできません。

表 1 標準履修年次別の科目配分とそれに基づく履修計画

区分	1年		2年		3年		4年		必要
共通	体育	1	体育	1					13.5
	総合 A 総合 B 英語	6 1 4.5							
関連	第 2 外国語								3
専門基礎	必修	知識情報概論	2	知識情報演習 I	2				25
		哲学	2	知識情報演習 II	2				
	情報基礎 情報基礎実習 情報リテラシ実習 プログラミング演習 I プログラミング演習 II 情報数学 統計 (計 9 科目 16 単位)	2 2 1 1 2 2 2 2	知識情報演習 III 専門英語 I 専門英語 II (計 5 科目 9 単位)	2 1.5 1.5					
選択	情報社会と法制度 情報システム概説 基礎数学 A 基礎数学 B (計 4 科目 8 単位)	2 2 2 2	知的財産概論 量的調査法 多変量解析 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 知識資源組織化論 データベース概説 コンピュータシステム とネットワーク 自然言語解析基礎 メディア社会学 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 テキスト解釈 学問と社会 (計 17 科目 34 単位)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			(21 科目 42 単位中から)	32	
自由			知的探求の世界 I 情報行政法	1.5 2	知的探求の世界 II	1			
専門科目	必修				主専攻実習 I, II 専門英語 III, IV	2 2	卒業研究	6	10
	選択				自専攻の専門科目 他専攻・学類共通の専門科目			20 8	30
	自由						知識情報特論	2	
合計	(必修 31.5 単位)	39.5	(必修 10 単位)	40	(必修 4 単位)	30	(必修 6 単位)	16	125.5

合計欄に示した単位数は卒業に向けて必要な最小限の単位数を各学年に割り振ったものである。

### 3. 専門基礎科目の履修

専門科目の前提として学んでおくべき基礎的な科目群を専門基礎科目といい、本学類では概ね 1～2 年次を対象に開設されます。いずれの主専攻にも共通の基礎的内容です。14 科目 (25 単位) の必修科目全てと 21 科目中 16 科目 (32 単位) 以上の選択科目を修得することが卒業の要件です。専門基礎科目の選択科目は準必修と考え、できるだけ多くの科目\*を履修するよう計画してください。

\*ただし、2 年次向けに開講された専門基礎科目を 2 年次に全て履修登録すると、体育 1 単位と合



表 2 自由科目に関する卒業要件

区分	カテゴリ等	必修・選択科目としての要求単位数	自由科目としての要求単位数
共通科目	総合科目 A	6	0～6
	体育	2	0～2
	合計	—	0～6
関連科目	自由科目	—	0～12
専門基礎科目	選択科目	32	0～8
	自由科目	—	
専門科目	知識情報特論	2	0～8
	自主専攻	20	
	他主専攻・共通	8	
総計		—	12

共通科目のうち、6 単位を超えて修得した総合科目 A の単位は共通科目の自由科目に区分を変更することができます。また、全学年向けに自由科目として開設される体育の単位も共通科目の自由科目として扱います。ただし、総合科目 A としての自由科目は 0～6 単位、体育としての自由科目は 0～2 単位、共通科目全体での自由科目は 0～6 単位と指定されているので、体育は 2 単位まで、体育と総合科目 A を合計して 6 単位までしか、卒業要件上必要な 12 単位の自由科目に含めることはできません。つまり総合科目 A と体育を合わせて 12 単位以上の自由科目を修得しても、それとは別に 6 単位以上の自由科目を共通科目以外の区分で修得しなければなりません。

本学類では国語や外国語中級，外国語上級，特設の自由科目，博物館に関する科目，他学類の開設科目は関連科目の自由科目として卒業要件に含めることができます。ただし、「教職に関する科目」を関連科目にすることはできません。関連科目の自由科目として 12 単位以上を修得した場合は，他の区分の自由科目を修得する必要がなくなります。12 単位に不足する場合は，他の区分の自由科目と合算して 12 単位以上としてください。

専門基礎科目では 32 単位を超えて修得した選択科目を自由科目に区分変更することができます。また自由科目として開設された 3 科目の修得によっても自由科目の単位数が得られます。専門基礎科目としての自由科目は 0～8 単位と指定されているので，専門基礎科目の区分で自由科目 8 単位以上を修得しても，専門基礎科目以外の区分で 4 単位以上修得することが必要です。

専門科目では特に自由科目として開設される科目はありませんが，2 単位を超えて履修した知識情報特講，20 単位を超えて履修した自主専攻の専門科目，8 単位を超えて履修した他主専攻や学類共通の専門科目は自由科目に区分を変更することができます。専門基礎科目と同様に，専門科目としての自由科目は 0～8 単位と指定されているので，専門科目の区分で自由科目 8 単位以上を修得しても，専門科目以外の区分で 4 単位以上修得することが必要です。

## 6. 語学

本学類の教育課程は、語学、特に英語の能力を発展させることを目標の一つとしています。本学類では第 2 外国語を必修とするとともに、2～3 年次に必修科目として専門英語を置き、卒業まで継続的に語学を学習することを促しています。特に図書館関係の専門職を目指す人は、第 2 外国語も身につけることを目標にしてください。

英語は、入学直後のプレースメントテストの結果をもとに、受講クラスが指定されます。英語とドイツ語は、期末試験に加えて学年末に行われる検定試験に合格しないと単位を修得できません。検定不合格者は 8 月、2 月に再受検できます。英語の検定不合格者のためには外国語センターによる「英語 V (英語基礎)」が開講されるので、これを受講するなどして早期に検定に合格するようにしてください。総合評価が D または履修放棄であった人は、翌年度に再履修しなければなりません。外国語の再履修には履修しようとするクラスの授業担当教員の許可が必要です。特に、英語とドイツ語の再履修では「再履修許可願」を外国語センター事務室に提出しなければなりません。

外国語の学習をさらに発展させたい人のために、全学の 2 年次以上を対象に外国語中級、外国語上級が外国語センターによって開設されます。これらの科目は本学類では関連科目の自由科目として卒業要件に含めることができます。

大学での単位の修得だけでなく、TOEIC や TOEFL、英検など対外的に通用する語学能力検定を受検して、自分の語学力の水準を確認することもお勧めします。図書館情報メディア研究科博士前期課程の入学試験では、TOEIC または TOEFL のスコア提出が必要です（平成 19 年度現在）し、米国留学にも TOEFL のスコアが必要です。高いスコアを持っていることは就職活動でも有利に働きます。

## 7. 日本語・日本事情等に関する科目

外国人留学生および「外国において相当の期間、中等教育を受けた学生」（帰国生徒）は、第 1 外国語 4.5 単位に代えて「日本語科目」4 単位の履修による振り替えを認めることがあります。総合科目 A についても「日本事情に関する科目」により最大 3 単位までの振り替えを認めることがあります。振り替えを希望する学生は、4 月（2 学期入学者は 8 月）の履修申請期限内に単位振替申請の手続きが必要です。希望する人全員が振り替えを認められるわけではなく、教員による面接が必要ですので、必ず事前に学群学務係の窓口にご相談してください。

## 8. フレッシュマン・セミナーとリテラシ実習

本学では 1 年次 1 学期にフレッシュマン・セミナー（総合科目 B）をクラス単位で開講します。本学類では特に少人数でのリテラシ教育とキャリア教育に重点を置いて、学類共通のプログラムによって授業をすすめます。同じ時間枠の 2,3 学期には「リテラシ実習」をクラス単位で開講し、大学生として必要な、情報に関する読み(reading)、書き

(writing), 計算(arithmetic)の 3R's の能力育成を少人数教育によって展開します.

9. キャリア教育

本学では1年次1学期にフレッシュマン・セミナー（総合科目 B）を必修科目として  
（ここももう少し書く）

学 群 履 修 細 則  
資 格 科 目 一 覧 等

## 国立大学法人筑波大学情報学群履修細則

### (趣旨)

第1条 この部局細則は、国立大学法人筑波大学学群学則（平成16年法人規則第10号。以下「学群学則」という。）第25条第1項、第28条第1項、第31条第1項、第33条、第35条第2項及び第40条の規定に基づき、情報学群における教育課程の編成及びその履修に関し必要な事項を定めるものとする。

### (主専攻分野)

第2条 学群学則第25条第1項の部局細則で定める主専攻分野は、次の表のとおりとする。

学 類	主 専 攻 分 野
情 報 科 学 類	ソフトウェアサイエンス、情報システム、 知能情報メディア
情報メディア創成学類	情報メディア創成
知識情報・図書館学類	知識科学、知識情報システム、情報経営・図書館

### (履修方法)

第3条 情報学群における主専攻分野別の「専門科目」、「専門基礎科目」及び「基礎科目」ごとの卒業に必要な履修科目及び履修単位数は、別表第1のとおりとする。この場合において、「基礎科目」のうち、「共通科目・情報処理」の単位については、情報科学類にあつては「専門科目」、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類にあつては「専門基礎科目」の履修により修得した単位をもって充てるものとする。

### (主専攻分野の選択条件)

第4条 学群長は、学生の主専攻分野について、学生の希望を勘案し、入学した年次終了時以降に選考を行い、学類教員会議及び学群運営委員会の議を経て決定する。

2 学生が主専攻分野を選択するにあたって、あらかじめ、履修すべき授業科目及び単位数は、別表第2のとおりとする。

### (履修科目の登録の上限)

第5条 学群学則第33条第1項の部局細則で定める履修科目の登録の上限は、45単位とする。ただし、編入学を許可された者の履修科目の登録の上限は、入学した年に限り55単位とする。

これらの場合において、「教職科目」及び「博物館に関する科目」は、この単位数に含めない。

2 学群学則第33条第2項の部局細則で定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる場合の要件及び単位数は、次の表のとおりとする。

学 類	要 件	単位数
情報科学類	前年度において卒業要件科目を40単位以上修得し、申請単位数の60%以上が「A」であること。	55単位

情報メディア創成学類	前年度において卒業要件科目を40単位以上修得し、申請単位数の60%以上が「A」であること。	55単位
知識情報・図書館学類	前年度において卒業の要件として必要な単位を40単位以上修得し、その70%以上が「A」である者。	55単位

(成績の評価)

第6条 学群学則第35条第2項の部局細則で定める合格及び不合格の評語を用いることができる授業科目は、「フレッシュマン・セミナー」とする。

(早期卒業)

第7条 学群学則第40条に規定する早期卒業の対象者及び基準は、次の表のとおりとする。

学 類	対 象 者	基 準
情報科学類	2年次終了時において卒業に必要な単位数を85単位以上修得し、かつ成績が上位10%以内にある者について、卒業の見込み等を総合的に勘案して判断する。ただし、2学期入学者については、科目「卒業研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の履修条件を満たしており、かつ成績優秀な者について、卒業の見込み等を勘案して総合的に判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定めている126単位を修得した者。
情報メディア創成学類	2年次終了時において卒業に必要な単位数を85単位以上修得し、その90%以上が「A」である者について、卒業の見込み等を総合的に勘案して判断する。	3年以上在学し、卒業要件として定められた所定単位を修得すること。
知識情報・図書館学類	1) 2年次終了時において卒業に必要な単位を90単位以上修得し、成績が上位3%以内である者。 2) 4年次1学期末卒業を希望する2学期入学者にあつては、3年次1学期終了時において卒業に必要な単位を90単位以上を修得し、成績が上位3%以内である者。 3) 4年次3学期末卒業を希望する2学期入学者にあつては、3年次1学期終了時において卒業に必要な単位を80単位以上を修得し、成績が優秀である者。	(1) 卒業の要件として定められている所定の単位を修得した者。 (2) 卒業研究の内容が優秀であると認められた者。

(雑則)

第8条 この部局細則に規定するもののほか、主専攻分野の選択時期、卒業研究の選択及び提出時期その他学類における授業科目の履修に関し必要な事項は、学類教員会議の議を経て、学類長が定め、学内に公示するものとする。

附 則

この部局細則は、平成19年4月1日から施行する。

教科に関する科目一覧(知識情報・図書館学類)

教科	免許法に規定する科目			区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数				
		中学校	高等学校			
数   学	代数学	1以上	1以上	代数学	(知識情報・図書館学類開設) ◎基礎数学B, 情報数学	
	幾何学	1以上	1以上	幾何学	(情報メディア創成学類開設) ◎情報数学Ⅲ, CG基礎, インタラクティブCG (情報科学類開設) 計算幾何	
	解析学	1以上	1以上	解析学	(知識情報・図書館学類開設) ◎基礎数学A (情報科学類開設) 数値計算法, 解析学Ⅲ, 複素関数論	
	「確率論、統計学」	1以上	1以上	「確率論、統計学」	(知識情報・図書館学類開設) 統計, 多変量解析, データマイニング	
	コンピュータ	1以上	1以上	コンピュータ	(知識情報・図書館学類開設) ◎データ構造とアルゴリズム, 知識情報演習Ⅲ	
合 計 (中学1種、高校1種)		20	20			

教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	低修得単位			
		高等学校			
情   報	情報社会及び情報倫理	1以上	情報社会及び情報倫理	(情報学群開設) ◎情報社会と法制度, 知的財産概論	
	コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	1以上	コンピュータ及び情報処理	(知識情報・図書館学類開設) データ表現と処理 コンピュータシステムとネットワーク	
			コンピュータ及び情報処理 (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) プログラミング演習Ⅰ	
	情報システム (実習を含む。)	1以上	情報システム	(知識情報・図書館学類開設) 情報システム概説, データベース概説, 自然言語解析基礎	
			情報システム(実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報検索システム	
	情報通信ネットワーク (実習を含む。)	1以上	情報通信ネットワーク	(知識情報・図書館学類開設) グリッドコンピューティング	
			情報通信ネットワーク (実習を含む。)	(知識情報・図書館学類開設) ◎Webプログラミング	
	マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)	1以上	マルチメディア表現及び技術	(知識情報・図書館学類開設) ◎マルチメディアシステム, デジタルドキュメント, 情報デザインとインタフェース	
マルチメディア表現及び技術 (実習を含む。)			(知識情報・図書館学類開設) プログラミング演習Ⅱ		
情報と職業	1以上	情報と職業	(教職科目その他開設) ◎情報と職業 (知識情報・図書館学類開設) インターンシップ		
合 計 (中学1種、高校1種)		20			

- (注) 1. 教科に[関する科目の欄中, 「 」のものは1科目以上にわたり修得すればよい。  
 2. 教科に[関する科目の欄中, ( )のものは必ず含めて修得しなければならない。  
 3. 教科に関する科目の欄中, ○○及び○とあるものは両科目修得しなければならない。  
 4. 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

教科に関する科目一覧(知識情報・図書館学類)

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		中学校			
社	日本史及び外国史	1以上	日本史及び外国史	(人文学類開設) ◎史学概論Ⅰ (日本語・日本文化学類開設) ◎欧米の歴史と文化, ◎東洋の歴史と文化 (知識情報・図書館学類開設) 日本図書館学, 中国図書館学, 図書館文化史論	
	地理学(地誌を含む)	1以上	地理学(地誌を含む。)	(地球学類開設) ◎人文地理学 (知識情報・図書館学類開設) 教育文化政策	
			地誌	(地球学類開設) ◎地誌学	
会	「法学、政治学」	1以上	「法学、政治学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報法, 知的財産権論, 図書館情報法制度論	
	「社会学、経済学」	1以上	「社会学、経済学」	(知識情報・図書館学類開設) ◎メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 知識形成論, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学、倫理学、宗教学」	1以上	「哲学、倫理学、宗教学」	(知識情報・図書館学類開設) 哲学, 知識論	
合 計 (中学1種、高校1種)		20			

免許教科	免許法に規定する科目		区 分	本学における開設授業科目 (開設学群・学類)	備 考
	教科に関する科目	最低修得単位数			
		高等学校			
公 民	「法学(国際法を含む)、 政治学(国際政治を含む)」	1以上	「法学(国際法を含む)、 政治学(国際政治を含む)」	(知識情報・図書館学類開設) ◎情報法, 知的財産権論, 図書館情報法制度論	
	「社会学、経済学(国際経済を含む)」	1以上	「社会学、経済学(国際経済を含む)」	(知識情報・図書館学類開設) ◎メディア社会学, 量的調査法, メディア社会文化論, 質的調査法, 知識形成論, 情報行動論, 情報経済論, 経営・組織論	
	「哲学、倫理学、宗教学、 心理学」	1以上	「哲学、倫理学、宗教学、 心理学」	(知識情報・図書館学類開設) 哲学, 知識論, メディア教育と発達	
合 計 (中学1種、高校1種)		20			

(注) 1. 教科に関する科目の欄中, ( )内ものは必ず含めて修得しなければならない。

2. 教科に関する科目の欄中, ○○及び○とあるものは両科目修得しなければならない。

3. 教科に[関する科目の欄中, 「」内ものは1科目以上にわたり修得すればよい。

2. 本学における開設授業科目の欄中, ◎の付してあるものは, 免許取得の際の必修科目を表す。

表1 司書（大学において修得すべき図書館に関する科目（平成19年度以降入学者対象））

区分	図書館法施行規則に定める科目		本学における開設授業科目			備考
	科目	単位数	授業科目	単位数	開設学類	
甲群  必修 12科目・ 18単位	生涯学習概論	1	生涯学習と図書館	2	知識情報・ 図書館学類	
	図書館概論	2	図書館論	2		
	図書館経営論	1	経営・組織論	2		
	図書館サービス論	2	情報サービス経営論	2		
	情報サービス概説	2	情報探索論	2		いずれ か1科目 選択
			情報サービス構成論	2		
	レファレンスサービス演習	1	知識情報演習Ⅱ	2		
	情報検索演習	1	情報基礎実習	1		
	図書館資料論	2	コレクションとアクセス	2		
	専門資料論	1	学術メディア論	2		
	資料組織概説	2	知識資源組織化論	2		
	資料組織演習	2	知識情報演習Ⅰ	2		
児童サービス論	1	メディア教育と発達	2			
乙群  選択 2科目・ 2単位 以上	図書及び図書館史	1	図書館文化史論	2		
	資料特論	1	日本図書館学	2	いずれ か1科目 選択	
			中国図書館学	2		
			デジタルドキュメント	2		
	コミュニケーション論	1	知識形成論	2		
情報機器論	1	情報基礎	2			
図書館特論	1	デジタルライブラリ インターンシップ	2 4	いずれ か1科目 選択		

（備考）1 図書館に関する科目として修得した単位は、各学群の履修細則の定めるところにより、卒業要件の単位として参入できます。

2 所定の単位を修得した者には、図書館に関する科目の「単位修得証明書」を発行します。

司書資格の証明を求められた場合には、「単位修得証明書」と「卒業証明書」を提出してください。

表4 司書教諭（大学において修得すべき司書教諭講習に相当する科目）

学校図書館司書教諭講習規に定める科目		本学における開設授業科目		
科目	単位数	授業科目	単位数	開設学群・学類
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	知識情報 ・図書館学類
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	

## 大学が単位を与える学修一覧

検 定 名	対象となる級等	認定対象科目
(財)日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定	1級・準1級	英語Ⅱ (1.5単位) ※注1
TOEFL ペーパー版テストの点数 (コンピュータ版テストの点数)	550点以上 (213点以上)	
TOEIC	730点以上	
(財)ドイツ語学文学振興会が実施するドイツ語技能検定	1級・2級・3級	ドイツ語G, L, P (1.5単位)
ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験	基礎統一試験以上	ドイツ語G, L, P (1.5単位)
(財)フランス語教育振興協会が実施する実用フランス語技能検定	1級・準1級・2級・3級	フランス語Ⅰ-1~3 (1.5単位)
ロシア語検定試験実行委員会が実施するロシア語検定試験	第4・第3・第2・第1・基礎	ロシア語Ⅰ-1~3 (1.5単位)
(財)日本スペイン協会が実施するスペイン語技能検定	1級・2級・3級・4級・5級	スペイン語 (1.5単位)

- (注) 1 実用英語技能検定及びTOEFL又はTOEICは、いずれか1つの試験についてのみ認定する。
- 2 この表に掲げるもののほか、専門基礎科目及び専門科目として認定する単位は、45時間の学修をもって換算する単位とする。
- 3 共通科目等開設組織等において定める基準を最低の基準とし、それ以上の基準により各学類・専門学群において与えることができる単位を表す。
- 4 ゲーテ・インスティトゥートが実施する検定試験の「基礎統一試験」以上の試験とは「職業ドイツ語検定試験」「ドイツ語中級統一試験」「国際ビジネスドイツ語検定試験」「ドイツ語上級統一試験」「ドイツ語小ディプロム試験」及び「ドイツ語大ディプロム試験」を表す。
- 5 ロシア語検定における認定の基準は、検定試験結果の基礎レベル以上とする。  
(第4レベル、第3レベル、第2レベル、第1レベル及び基礎レベル)

教 員 一 覽  
索 引

## 索引

科目名	頁
[か行]	
基礎数学A	16
基礎数学B	17
[さ行]	
情報基礎	5
情報基礎実習-1	6
情報基礎実習-2	7
情報システム概説	15
情報社会と法制度	2
情報数学	13
情報リテラシ実習-1	8
情報リテラシ実習-2	8
情報リテラシ実習-3	8
情報リテラシ実習-4	8
[た行]	
知識情報概論	3
哲学	4
統計	14
[は行]	
フレッシュマンセミナー	1
プログラミング演習 I -1	9
プログラミング演習 I -2	10
プログラミング演習 II -1	11
プログラミング演習 II -2	12